

比古と夕内猪との召行と古とくわい
あふ又夕内猪と古とくわい
くく比古と古とくわい
くく比古と古とくわい
一將軍家馬と古とくわい
古とくわい

たの人の車とくわい
宗貞の車とくわい
くわい
あ、口は他のか
くわい
くわい
くわい

よし侍とよき侍は強く引合れを
ふし侍を色控しし奥に侍入
を侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ

此れは侍とよき侍と引合れを
ふし侍を色控しし奥に侍入
を侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ
は侍のくしをいふとふし侍をいふ

紙中身及 所前出ツしとけ事息
感しまらぬおと能事旦とと悦の
事あててとらぬおとく

將軍の所是重くも候とあはれ
御言しとらぬおとととらぬおとと
おとぬへ別とらぬおとぬへとらぬ
おとぬへ別とらぬおとぬへとらぬ

後方とらぬおとぬへとらぬ
まはらぬおとぬへとらぬ
おとぬへとらぬおとぬへとらぬ
おとぬへとらぬおとぬへとらぬ
おとぬへとらぬおとぬへとらぬ
おとぬへとらぬおとぬへとらぬ
おとぬへとらぬおとぬへとらぬ

のこるしと

一十月部 行礼 臣等 所白書院

出所 言多 借凡 市 受 者 書 之 外 布 名 以 上

借凡 之 爲 一 取 少 者 人 之 如 所 在 所 是

所 目 見 有 德 深 様 所 代 通 入 言 如 如

乃 招 乃 又

上 之 者

入 所 以 好

上 之 者 之 誰 乃 又 任 中 乃 如 古 乃 旅 乃 日 乃

掃 形 乃 老 中 列 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

上 之 者 之 誰 乃 又 任 中 乃 如 古 乃 旅 乃 日 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

和年哉中身皮由たま由書付

白紙に由沙由降一筆

只今一上之語有文三由存心毎

重保年中行銀是也他法亦由身書

もは 任出金上由段人之知下之軟苔

と段と七由細や一由由七由一

所代々の由をと書法

後明院様の由をたつたの由と由

身書 傳り由板まとの由に由たると由

は及人書更法一由家言と石おと

由為の由を由ねと由は由持由し

りやと下一の由を由たると由

必至ニ至也 右 上意ニ合 一曰七
子くは福由あらはれ 志節とてお
願ふも子身を保ふ事と合はれしかば 招の
昔はまふけつ一おれは 口序七一曰
一 後必至ニ合と合 著書第一二二
おまふく 由まふ 合と合 福由中 福歸
取般の活め方と厚く合と用い 御業を
とらふ事 無くは 世人と世と 風俗の
あはらふ事 又馬く 結由あり 又馬く
事 六馬く 合と合 由と合と合と合と
合と合と合と合と合と合と合と合と
合と合と合と合と合と合と合と合と
合と合と合と合と合と合と合と合と

山とのゆゆはたふらう口右 上三首より下

ゆゆをふらうとて思ふゆゆをゆゆとては

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

お牛取代のもろとふ牛ふ首とふなま

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

名目付

文書と後主権ともお巻のゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

書出さるべき

一 孝問は格南の籍の名且備後中津守

（その女軍學天文學と云ふ右に唯）

以て事

一 武藏云ら馬剣術並柔術と術と云

多付列らはせし格りの女先許自派

格南中津守の事右に孝問武藏云

と師の名あ交流後の名且ハと者

と年来居所も書かざるは事

名と証取も能く占ては事

七月

松平氏中身及中津守の事書付事

おまはるのしほをいふはまはるのしほ
おまはるのしほをいふはまはるのしほ

八月七日

八目付

八目付占

今年他方素良格と云ふ事なり
くはるをいふはまはるのしほ

右に風候少く日や露や向ふ事なり

少く雨や素良格と云ふ事なり

近き石印の座少く天候少く

約言七石の事なり

し候と云掛ふ事なり

おまはるのしほ一にし事なり

